

# エジプト文明

エジプトでは、メソポタミアとともに最も古く、高度な文明が起こった。ギリシアのヘロドトスの「エジプトはナイルのたまもの」という言葉通り、ナイル川の増減水を利用した豊かな農業が背景に挙げられる。また、同地域が地形の利を得て、周辺民族の侵入や外国の支配をうけにくかったことも背景と考えられる。

## ○エジプトの起こりと文化

### ●統一国家の登場

エジプトは、ナイル川の水量の増減で1年が3つの季節に分けられる。

ナイル川の氾濫がもたらす肥沃土を農業に利用して、エジプト文明は発達した。

⇒ギリシアの<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ は、「エジプトは<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ のたまもの」と評した。

◇(1) …前5世紀の歴史家で、ペルシア戦争を描いた『<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_』を著述



古くからエジプト人は、(2) 川流域にノモスという集落を形成した。

→ノモスは治水・灌漑の指導者を必要とし、他のノモスとの統合を繰り返した。

⇒前3000年頃、王(称号：<sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_)による統一国家がつけられた。



前3世紀まで約30の王朝が交替したが、特に繁栄した時期は次の3区分である。

①<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_ …前27～前22世紀の第3～6王朝

②<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_ …前21～前18世紀の第11～12王朝

③<sup>(7)</sup> \_\_\_\_\_ …前1567～前1085年の第18～20王朝



図1 ナイロメーター

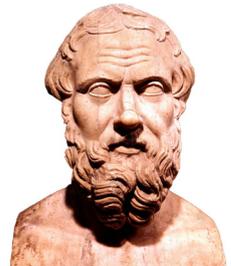


図2 ヘロドトス

### ●エジプトの文化

ファラオ：神の子と考えられ、専制的な神権政治を実施

宗教：次の神々が存在する多神教

①古王国時代からの神で、太陽神<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_

→新王国時代、(8) と首都テーベの守護神アモンの信仰が重なり、アモン＝ラーの信仰が隆盛

⇒新王国時代の途中、アメンホテプ4世はアトンが唯一神の一神教を強制

②古王国時代からの神で、死者の審判をおこなう冥界の神<sup>(9)</sup> \_\_\_\_\_

文字：①碑文・墓室・石棺に刻む<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_ (ヒエログリフ)

②宗教書・行政文書に用いる(11)の簡易文字神官文字(ヒエラティック)

③民衆文字(デモティック)

⇒(10)・民衆文字・ギリシア文字を刻んだ碑文<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_ が、ナポレオン軍に発見され、フランス人シャンポリオンが(10)を解読

学問：10進法や、ナイルの氾濫に対応するために<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_ ・測地術の発達

死生観：靈魂の不滅と死後の世界を信じて<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_ を作り、

<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_ に神聖文字で書いた「<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_」とともに埋葬

ピラミッド：エジプトの王墓の一種で、<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_ 時代が最盛期

◇(12) …のちにローマで採用されてユリウス暦として利用

◇(13) …植物の茎の繊維でつくった紙



図3 ナイル川と都



図4 ロゼッタ＝ストーン



図5 死者の書

## ○王国の発展と終焉

### ●各王国の出来事

<古王国 | 前 27～前 22 世紀>

[首都：ナイル下流域の<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_]

王<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_ の墓である<sup>(19)</sup> \_\_\_\_\_ のピラミッドが築造された。



図6 ギザのピラミッド

<中王国 | 前 21～前 18 世紀>

[首都：ナイル中流域の<sup>(20)</sup> \_\_\_\_\_]

前 18 世紀末期、シリアから遊牧民<sup>(21)</sup> \_\_\_\_\_ が侵入した。

◇(21) …民族名ではなく、「異邦人の支配者」という意味



図7 ヒクソス

<新王国 | 前 16～前 11 世紀>

[首都：テーベ、前 14 世紀からアケトアトン (<sup>(22)</sup> \_\_\_\_\_)]

前 16 世紀、ヒクソスを追放してシリアへ進出した。

→前 14 世紀、王<sup>(23)</sup> \_\_\_\_\_ が都を (22) に移動し、

多神教を禁じて1つの神<sup>(24)</sup> \_\_\_\_\_ だけの信仰を強制した。

→(23) は自身を (24) に有益なる者「イクナートン」と改称した。

⇒(24) 信仰は (23) の死で終わったが、写実的な<sup>(25)</sup> \_\_\_\_\_ 美術を生んだ。



図8 アメンホテプ  
(右上：アトン)



前 13 世紀の王ラムセス 2 世の時、エジプトの領土は最大になった。

⇒またラムセス 2 世は、ヒッタイトとシリアのカデシュで戦った。

<その後>

前 7 世紀、アッシリア王国に征服され、

次いで前 525 年、アケメネス朝ペルシアに征服された。